

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳の保持、自立支援、安心安全等を目的とし、透明性のある事業運営に取り組んでいます。地域に根付いた活動に重点をおき、倫理規定でもある内規「ホームふるさと心得」を掲げ、朝礼で確認をしています。	「理念」と「スタッフの心得」がある。毎朝の申し送り時に理念の確認を行い気持ちを新たにしている。家族へは契約の時に理念を伝え、運営推進会議でも毎回会議の冒頭で委員の方に伝えている。10月には2ユニット目がスタートし職員が増えるのでホームの理念を周知徹底し利用者への「安心できる生活環境の支援」を維持・継続していこうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	永田小学校の方からの「運動会」、「音楽会」のお誘いや、豊田中学校1年生の「福祉体験学習」の受け入れ、また区の「おてんま」、「回覧板」、旧ホーム在住の「地域おこし協力隊」との交流も生まれ、より一層地域の方々との結びつきが深まりました。	常会に加入し回覧板が回り地域清掃等の奉仕活動に参加している。中学校生徒の体験学習の受け入れや小学校児童との交流が続けられている。餅つきやフラダンスなどのボランティアが来訪する時には近所の方々に声がけし利用者と一緒に楽しんでいただいている。地域の人々からの野菜や果物などの差し入れも多くあり、ホームでは感謝しており、また、人々も好意的にホームを受け入れてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のお年寄りが、どんなところか個々でみえたり、集団で見学にみえたりしました。その際、認知症になっても安心して快適に生活できる旨を説明しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し、利用者様の状況・行事や今後の予定等を報告、評価や話し合いを行い、サービス向上に役立てています。	家族、区長、民生委員、市職員等を委員に2ヶ月に1回開催している。利用状況、行事報告、事故報告、ヒヤリハット事例等を伝え、委員の方からの意見をいただいている。また、理念や運営方針、サービス提供の方針なども伝え、委員の方から「大規模施設の利用者の表情と違い、個々の利用者は生き生きしている」との感想もいただいている。議事録は次の会議の際に出席者に必ず手渡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自然災害の避難場所や方法について相談し、指導いただいている。運営推進会議時、市職員より提案事項をいただいています。	市主催の施設部会や介護支援専門員連絡会に出席し情報の収集をしている。「虐待について」等の勉強会もあり職員が受講し、他のホーム職員に伝達している。介護相談員が2ヶ月に1回来訪しており、利用者も外部の方との会話を楽しみにしている。介護保険の更新や区分変更の申請についても家族へ事前に相談し、代行している。10月に2ユニット体制となるので、増築に関することで市との連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は施錠しない。ミーティングや日々の申し送り時など、身体のみならず、言葉の対応についても拘束にならないように点検しています。	年1回、身体拘束についての勉強会を行っている。勉強会では安全を過信しないことが大事であると伝え、転倒防止のためのセンサー使用や夜間帯にベッド脇にマットを敷くなど、個々に対応している。外出傾向の方が玄関に行き自分の靴を確認することでいつでも自由に外に出れると安心し外出願望が薄れたこともあったという。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で管理者が、職員に高齢者虐待防止について話、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝礼の時やミーティングでスタッフ全員に周知してもらい日頃の活動に生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族や利用者に解り易く説明し、不安や疑問があれば理解・納得されるまで十分時間をかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際は、気軽に意見や要望を言っていたり心掛けています。また、「ふるさとだより」発送の際、アンケートも取らせていただき、貴重なご意見をいただいています。	利用者が発する一言や表情などから要望等を汲み取り、具現化するようにしている。毎週交代で面会に来る家族や月1回の訪問など、それぞれの家族により違うが、家族が来訪した時には意見や要望などを伺っている。年4回、文面は同じであるが一人ひとりの利用者のスナップ写真を掲載した新聞を家族に郵送している。また、その紙面にアンケート欄があり、返信内容には多くの感謝の言葉が寄せられているという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや活動の中で気が付いた点や、提案等気軽に職員が発言できる環境づくりに心掛けています。	朝夕の申し送りや昼食後のカンファレンスを行っている。外部から講師をお願いしたり管理者が講師役となり勉強会を行いサービスの質の向上に役立てている。年1回職員による自己評価を行い管理者と面談もしている。また、職員の心のケアなどを目的に、回数にこだわらずに個々に声がけをし話を聞いている。幅広い年齢層の職員で構成されているので働きやすい職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人スタッフ研修、ステップアップ研修、職場外研修など積極的に参加できるようにし、キャリアアップを目指してもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられる機会を増やし、一人一人がスキルアップしていける環境作りに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、市の連絡会に計画作成担当者は参加し、勉強しています。そこで得た情報はミーティングで報告しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン立案時や困った様子がみられた際は、傾聴したり要望を聞くなどして利用者様が笑顔で安心して生活できる様心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想い・困っていること・要望などを聞き、書きとめ、ケアプランに反映させ、良好な関係が築けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の想い、現在の状況を確認し、自立支援や役割、暮らし方等を探り、実現可能なものになるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせた生活ができるよう、できることは行っていただき、家事等は一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちや家族の想いを汲み取り、日頃の様子を写真やビデオに撮り面会の際に見て頂いています。受診の付き添いは家族の方にお願ひし共に本人を支えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に来たり、外泊したりして、知人や親戚の人との触れ合いは勿論ですが、近くの畑でも立ち話ができるよう、外に出ることに努めています。	遠方に住んでいる家族の帰省に合わせ、泊りで家に帰り墓参りや温泉、友人との再会などを楽しんでいる利用者がいる。家族がホームを訪問する際に利用者の友人を誘いホームで談笑するなど、交友関係が継続しているケースもある。利用者が年賀状を作成し家族への郵送を職員が手伝ったり、お盆や正月に自宅にて日帰りで過ごせるように家族への助言もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様をよく理解し、個別に話を聴いたり、調整役となり、仲良く楽しく過ごせるように努めています。食堂のテーブルの配置換えも必要に応じて行っています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合も状態などを家族に聞いたり、相談にのったりするように心掛けています。当施設で看取った利用者さんの家族とも関係が続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の暮らした環境や暮らし方が一人ひとり違うので、施設でも可能な限り意向に添うよう努めています。本人の想いを汲み毎週面会に見えるご家族もいらっしゃいます。	着替えに時間がかかるから入浴の順番を最後にしてほしいと利用者から言われ希望に沿っている。言葉で意思を伝えることができない方には声のトーンや短い一言、表情などを見落とさないように心掛け対応している。日常生活で塗り絵や計算ドリルなどを取り入れており、お互いに刺激しあって立派な作品や成果を表している利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の聞き取りだけでは不十分なので、日々の会話の内容を家族に確認しながら利用者さんを理解し、馴染みの暮らし方・生活環境に近づけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんとの関わりの中で身体的・精神的状態を把握し、必要な支援を行うと共に記録し、夜勤者に申し送り情報を共有してケアに繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺い、介護・看護・医師・訪看等とケアのあり方について相談し定期的にカンファレンスを行っている。状態に応じてプランを見直し、現状に即しているか評価して次に繋げている。	職員が利用者の1~2名を担当しているので計画作成担当者が職員に聞き取りを行い書き留め、カンファレンスの際に参考に話し合いをしている。支援内容に沿って評価を行い定期的に見直しをしている。介護計画は具体的な表現でわかりやすく、家族が訪問された時に説明し納得をいただくようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の担当者が個人記録にケアの実践や結果、気づきなどを記録し、夜勤者に申し送りをしています。夜間の様子は、当日勤務の職員全員に報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の訪問診療や訪問看護師による健康管理のほか、理髪や歯科医の往診など、必要なニーズに早期に対応しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などには近所の人にもお手伝いをお願いし、利用者さんが安全に楽しく参加できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の定期的往診や週1回の訪問看護師による訪問等により定期的に健康チェックが行われ、また急変時にも対応していただき医療連携がとれています。本人の希望はもちろんの事、ご家族が立ち会う場面もあります。	契約時に説明をし、利用前からのかかりつけ医を継続するか協力病院へ変更するかを決めていただいている。協力病院には多くの診療科目があるため変更する方が多い。また、その病院の医師による往診が2週間に1回、訪問看護も24時間対応で1週間に1回の訪問がある。受診後の家族への連絡は専門的な事柄が多いため看護師資格の職員が伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック、排便の有無、尿の性状などや様子でいつもと違うときは、看護師に報告しています。食事量や食べ方、食べる速度、食事の様子も何時も違う時は報告しています。入浴の際は看護師も一緒に皮膚の状態を観察し、必要な薬を塗布しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院され医師から説明を聞く際は、ご家族と施設職員も一緒に退院後の施設で注意すべきことや今後の治療等について聞いています。食事に関しては病院の栄養士さんにも相談しています。本人には、「早く退院できるように皆待っている」旨を伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の医療選択や看取りについては、施設職員だけでなく、医師、訪問看護師、ご家族が電話もしくは一同に集い、情報を共有し、支援をしています。	契約時に看取りの説明をしており、現実になったときにその都度利用者、家族の意向を伺っている。入院していた利用者がホームへ戻っての看取りを希望されたこともあり、昨年から今年にかけて3名の看取りがホームで行われた。協力病院から講師をお願いし勉強会を開いたり、経験のあるスタッフが若いスタッフへ指導をし、お互いにカバー仕合いながら混乱もなく行われたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変(救急車が到着するまでの対処方法)については、ケースの想定をしながら、話し合いを繰り返し行っています。事故発生時も同様です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成24年に発生した地震災害により避難を余儀なくされたとき、「市」「消防」「警察」「その他多くの地域住民」の方のご支援をいただきました。その経験を生かし緊急時の対応にあたり避難誘導等について日頃から管理者・防火管理者を中心に協力体制を築いています。	年2回の訓練を利用者と共に行っている。そのうち1回は消防署員の指導により行われている。今年度、区との防災協定の見直しを行い具体的な役割分担の取り決めも行った。実際、過去に地震による避難を行った経緯があり、教訓として食料品、生活用品の備蓄は万全にしている。各居室入り口の手すりには有事の際に利用者がすぐ使えるようにヘルメットが下げられている。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尿失禁が多くなった利用者様のプライドを傷つけない様、紙パンツを交換する際は本人の視点にたつて馴染みの職員が対応しています。	「スタッフの心得」を参考にしながら対応している。利用者ごとの面会簿が作られ利用者、家族のプライバシーが守られている。異性スタッフによる入浴やトイレ介助は利用者の希望に沿うようにしている。食事のスタイルも以前はテーブルをつなげ大きな輪で食べていたが、現在は利用者の希望に沿った形で時間やペースを気にしなくても良いように少人数での対応を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に優しい言葉遣いをするように心がけ、何でも話していただけるように努めています。傾聴することを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの意向や気持ちを尊重し、その人のペースで生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、着たい服を選択していただいたり、本人が決められない場合は相談に乗っています。身だしなみについても必要な時に声掛け又は支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんのできること、得意なことを生かしながら、安全に作業ができるよう支援しています。職員も一緒に会話し、食事や片付けを行っています。	外部から副食のみを導入している。みそ汁やご飯はホームで作り利用者の食べやすいように盛り付けをしている。春に沢山摘んできたセリを利用者がみそ漬けにしそれをおにぎりにまぶして食べたり、利用者からニラせんべいのリクエストがあると作って食べるなど、郷土食が喜ばれているという。誕生会にお赤飯でお祝いしたり、外のテラスでサンマを焼いて食べることもあり、それぞれ人気のメニューとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や身体の状態に応じて、食事形態や量を変更することもあります。水分摂取量を測定し、脱水予防を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声掛けや見守りを行い、そうでない方は、毎食後義歯洗浄・口腔ケアを行い、肺炎の予防をしています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんの動きを敏感に察知し、自尊心を傷つけないよう、個々に応じた介助を行っています。おむつを使用されている方でもトイレで排泄していただいています。	トイレでの排泄を基本とし支援している。自立している方も含め、利用者一人ひとりに合わせ対応をしている。夜中の排泄が気になり睡眠の妨げになっていた方に夜間のオムツ使用を提案し実行した結果、日中の活動も快適になったという。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様には、牛乳やヨーグルト、食物繊維が多い物を摂取できるよう工夫しています。便秘症の方は医師に相談し、個々に適した下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな利用者様は、シャワー浴をしていただいています。利用者様が入りたくない日は無理せず、翌日に入ってもらっています。	1週間に2回の入浴を予定している。月、火、金と曜日は決まっているが、利用者の都合で他の曜日に入浴することもある。湯船に入ることは嫌うがシャワーならOKという方もおり、一人ひとりの状態や希望に沿っている。シャワー浴の方にも季節感を味わっていただけるように、湯船にユズなどを浮かべた日には湯船からのお湯をふんだんに掛けて楽しんでいるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩・リズム体操・歌を歌うなど活動的に過ごし、生活リズムを整えるよう支援しています。室温管理や掛け物調節も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人別にファイルしており、副作用や用法などが誰が見てもすぐ分かるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることはしたいと皆さんがおっしゃいますので利用者さんの性格や能力に合わせ、洗濯物たたみや新聞の四つ折り等の家事と一緒にしています。食事や散歩、行事なども楽しみの一つとなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や個々の体調を見て野外に出たり、4月には高野辰之記念館の桜の花見に行きました。6月には中野市一本木公園へ薔薇を観にドライブしました。	90才以上の方が4名で外出時には全員が車イス対応となっている。利用者も外出にはやや消極的になりつつあるのでテラスや駐車場で日光浴をし気分転換をしている。駐車場に出ると近所の方も寄ってきて話をしたりしている。市内のバラ公園にも交替で出かけたが今年は車の中で観賞し外に出る方はいなかったという。ホームの盆踊りでも今年は椅子に座ったままで踊られる方が多かった。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族によって、金銭所持の意向が異なるため、本人の気持ちや意向を尊重し、家族と相談し決めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの希望に応じて、常日頃電話や手紙が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな高台に建てられた施設です。食堂はいつでも気持ち良くゆったりと過ごしていただけるようにテーブルや椅子を配置し、廊下に季節の応じた利用者様の作品を展示しています。天気の良い日はベランダに出て、季節を感じていただき、時にはお茶を飲んだりしています。	リビングとキッチンが一体の造りで中央にテーブルが配置されている。手作りの大きなカレンダーと時計が掛けられ、献立が描かれたボードが置かれていた。壁には利用者の笑顔の写真が飾られている。床暖房とエアコンで快適な温度調節がされるようになっている。新聞や家族からの差し入れの雑誌を見たりテレビを見たり、穏やかな時間を送られている。食堂兼リビングの一角には職員の姿が見えないと不安を感じる方にベッドが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで、全てが視界に入りやすくなっています。テーブルや椅子の位置を考慮し、落ち着いてくつろげるように取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族に自宅のベットの向きやお部屋に置かれていた馴染みのもの、使い慣れたものをお聞きし、本人が居心地よく過ごせるようにしています。中にはお地藏さまやこけしを置かれている方もいます。	テレビ、仏壇、いす、テーブルなどが持ち込まれている。一時、命が危険な状態になった方の居室には家族の祈りの千羽鶴が飾られていた。壁には孫の写真、日々訪問してくれる家族の写真などが飾られ、利用者や家族の思いが自然に感じられるような居室作りがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況が変わった場合は、持参のベッドから介護用のベッドに変えています。自立を促し、かつ安全に生活できるスペースや環境づくりを心掛けています。		